

<史料紹介> 『医心方』所引『僧深方』輯佚：東アジアに伝播した仏教医学の諸相

著者	多田 伊織
雑誌名	日本研究
巻	41
ページ	373-411
発行年	2010-03-31
その他の言語のタイトル	The Lost Chinese Medical Compendium Seng-shen-fang Cited in I-shin-po : Aspects of Buddhist Medicine as Transmitted through East Asia
URL	http://doi.org/10.15055/00000508

〈史料紹介〉

『医心方』所引『僧深方』輯佚

——東アジアに伝播した仏教医学の諸相

多田伊織

はじめに

丹波康頼が永観二（九八四）年に撰進した『医心方』三十巻は、当時日本に伝わっていた中国・朝鮮やインド起源の医書や日本製の処方を集大成した、現存する日本最古の医学全書である。最善本は国宝半井家本で、その大部分は院政期の写本であるが、幕末に幕府の医学館が書写・模刻するまで、世にほとんど出ることがなかった。その後も昭和五十七（一九八二）年に文化庁が買い上げるまで、秘蔵されていた。半井家本は昭和五十九年に国宝に指定された。^① 巻二十八房内篇が戦前は猥褻であるとして禁書とされたため、全巻の総合的な研究が可能になったのは、戦後のことである。

『医心方』所引の先行医書については、馬継興が二〇四種、一〇八八一条と数え上げる。その内、仏教関係の典籍は、『金光明最勝

王経』『大集陀羅尼經神呪』『千手觀音治病合藥經』『療痔病經』および義浄『南海寄歸内法伝』、僧侶が関係する医方は『耆婆脈決經』『耆婆方』『龍樹方』『慧日寺藥方』『新羅法師方』『鑒真方』『僧深方』『呉爽師方』『僧匡及徹公二家鍼灸經』^③、医論に『釈慧義寒食解雜論』の計十五（乃至十六）種である。^④

これらの内、散逸医書である『僧深方』は、『医心方』に多く引用され、唐・王燾（六七〇？～七五五）『外台秘要方』にも相当数採録される。管見によると、『医心方』では直接引用二百・間接引用十九の計二一九条、『外台秘要方』では直接引用三二五・間接引用一三二の計四五七条引用されており、復元できる条数は最大値で六七六条となる。^⑤ 実際には若干の重複があるので、復元できる条数はこれよりも少なくなるが、それを考慮しても、『医心方』と『外台秘要方』を合わせて、『僧深方』のまとまった輯佚が可能である。

さらに『外台秘要方』は、引用した部分が出典のどの巻にあるかを明示するので、『僧深方』の構成の一部が復元可能である。

『僧深方』は、南朝の劉宋・南斉間の積僧深が編纂した医書で、『隋書』経籍志以降、歴代の書目には次のように著録されている。

積僧深藥方 三十卷（亡）『隋書』経籍志

僧深集方三十卷 積僧深撰（医術本草）『旧唐書』経籍志

僧僧深集方三十卷（医術）『新唐書』芸文志

積僧深集方三十卷 『通志』芸文略

日本でも、藤原佐世（八四七～八九七）『日本国見在書目録』医方家には「方集廿九卷尺僧深撰」とあり、その時期までに伝来していたことがわかる。⁽⁶⁾

現在伝わる隋唐までの主要な中国医書は、北宋の校正医書局（嘉祐二（一〇五七）年創設）によって再編集されたため、改変（宋改）を経ている。しかし、『医心方』所引の文献は、宋改以前、遣唐使などが将来した古鈔本に基づいており、隋唐以前の医書の面目を現在に保つ点が貴重である。これは、『医心方』がほとんど実用とされず、世に流布しなかったために生じた皮肉な利点である。本来実用書である医書は、時代と共に内容を改変される運命にあるが、秘蔵されていた『医心方』はそれ故に現代に隋唐医学の古様を伝えて

いるのである。したがって、『医心方』から散逸医書を輯佚する場合、成立が『医心方』より古い医書であっても、対校する場合にはそれぞれの版本や写本の出自を見つつ、取捨選択をしなくてはならない。

『僧深方』の撰者僧深の伝記的資料は、二つしか見つかっていない。孫思邈『千金方』⁽⁷⁾巻七、風毒脚氣方「論風毒脚氣第一」⁽⁸⁾と、『外台秘要方』巻三七「乳石陰陽体性並草藥觸動形候等論並法一十七首」⁽⁹⁾に残る二条のみである。

『千金方』は、僧深について、次のように述べる。

論に曰く、諸経方を考うるに、往往にして脚弱の論有るも、古人に此の疾有ること少し。永嘉に南度して自り、衣纓士人、遭う者の有ること多し。嶺表江東に、支法存・仰道人等有り、並びに経方に留意し、偏えに斯の術を善くす。晉朝の仕望、全濟を獲るもの多く、此の二公に由らざるは莫し。

又、宋齊の間に枳門深師有り、道人に師ひ、法存等を述べ、諸家旧方もて三十巻と為す。其の脚弱一方、百余首に近し。

（論にいう、さまざまな経方を考えると、往々にして「脚弱」についての論があるが、昔の人はこの病気にかかることは少なかった。永嘉年間に晋が長江流域に遷って以来、貴族や士大夫は、この病気になるものが多かった。嶺表江東には、支法存・仰道人等がいて、

いずれも経方に留意して、脚弱の治療に大層優れていた。東晋の貴顕で、全快する者が多くいたが、この二人の治療法に依らないものはいなかった。

一方、劉宋・南斉の間の時代に、僧侶深師がおり、仰道人に師事し、支法存の処方を祖述し、さまざまな医家の旧来の処方を集めて三十巻にまとめた。その書物に集録された脚弱の処方は、百余首に近¹⁰い。

僧深がその方を学んだ支法存については、劉宋・劉敬叔撰の志怪小説『異苑』¹¹巻六の記事が最も早い¹¹が、この記事の内容が真実かどうか認めがたい。次に古いのは『隋書』経籍志(六五六)の「支法存『申蘇方』五卷、亡¹²」という記事であり、仏典では『道宣律師感通録』¹³(六六四)の「晋支法存於若耶溪謝敷隱処立壇(晋の支法存は若耶溪の謝敷の隱遁所に戒壇を立てた)」という記事である。北宋・贊寧『宋高僧伝』巻第二十「唐江州廬山五老峰法藏伝¹⁴」で宝曆中(八二四〜八二六)に八十二歳で亡くなった法藏が支法存になぞらえられているところを見ると、『隋書』経籍志が亡佚したと注記する支法存の処方は仏家に伝えられたらしい。

もう一つの伝記資料である『外台秘要方』所引『延年秘録』¹⁵は、僧深の家が医学を学んでいたことを示唆する。

深は薬性の相反畏惡する所以に達し、本草に備わる。但し深師の祖 道洪に學ぶも、道洪の傳うる所、依據する所云何。

(僧深は薬の性質が相反し畏惡する理由を深く理解して、本草学の知識は完璧だった。しかし、僧深の祖父は釈道洪に学んだのだが、道洪が伝えていた本草学の基づくところが何かはよくわからないとか。)

釈道洪については、『隋書』経籍志¹⁶に、釈道洪『寒食散対療』一卷が見える。尚、興膳宏・川合康三『隋書経籍志詳攷』(汲古書院、一九九五年)は『統高僧伝』巻十五所載の同名僧と同定するが、この釈道洪の生卒年は五七三〜六五二年であり、僧深の祖父がその術を学んだとすると、時代が合わない。

僧深が活躍した時代、僧侶は医家として尊重されていた。早くは『出三藏記集』巻十一に載る竺法汰「比丘尼戒本所出本末序第十」(訳出は三七九)¹⁷には、律に付随する薬方の胡本を得たことが見えている。

吾 昔 大露精比丘尼戒を得。而して錯またま其の薬方一柙を得。これを持ち自隨すること二十餘年なるも、人の傳譯すること無し。

(わたしは昔『大露精比丘尼戒』を手に入れた。そして、たまたま

その比丘尼戒に付随する薬方一箱を手に入れた。これを肌身離さず二十数年間持っていたのだが、だれも翻訳する人物がいなかった。」

ここで「一桺」というのは、当時の胡本の写本は、貝葉に記されたもので、横に細長い長方形にカットされた貝葉を重ね、上下に木の表紙を付けて紐で束ねたものだったからである。この話柄が示すのは、律の薬方だけが単行して流布していた事実である。薬方だけが流布したのは、胡僧が治療のためのマニュアルとして薬方を用いていたことを意味する。仏教の「五明」の一つ「医方明」は、仏教東漸の過程において、信者獲得の戦略の一つとして、積極的に用いられたであろうことが、この一事から窺えるのである。

中国では、完備した律である「広律」の胡本がなかなか入手できなかったが、五世紀第一四半期になると説一切有部の『十誦律』を皮切りに、法蔵部の『四分律』、大衆部の『摩訶僧祇律』、化地部の『五分律』と四大広律が相次いで訳出された。¹⁸ 律には医薬を扱う条が含まれている。

その後の例では『魏書』巻九一「李脩伝」に、その父李亮が、わざわざ北朝の北魏から南朝の劉宋に亡命し、沙門僧坦に医学を学んだことが見える。¹⁹

ところで、「僧深」という法名だが「僧淵」だった可能性も捨てきれない。唐代、高祖の諱「淵」を避け「泉」「深」が用いられた。²⁰

実際に『北史』では、「崔僧淵」を避諱のために「崔僧深」と書き換えている例がある。²¹ すると、南朝の僧侶である僧深も、元は「僧淵」だった可能性が出てくる。崔僧淵は中国史上周知の人物だったので、避諱による『北史』での「淵」字の書き換えが確認できたが、僧深は『僧深方』以外ではほぼ無名で、かつ僧侶であるため、正史では、芸文志等の書目以外では関心を持たれなかった。もし、「僧淵」であつたとすると、唐代に避諱によって「深」字に書き換えられた「淵」字が、気づかれぬままに後代書き戻されなかったことは十分あり得る。

そして、僧淵という名の僧は実在した。梁・慧皎『高僧傳』巻八に北魏の釈僧淵（四一四～四八二）の伝を載せ、梁・僧祐『出三藏記集』巻五「小乘迷学竺法度造異儀記第五」²³には、僧淵が涅槃經を誹謗したために舌が腐った話柄を記す。生卒年からすると、北魏の釈僧淵と『僧深方』の僧深は、活躍した時代は近いが、関係は不明である。

『医心方』所引『僧深方』輯佚本文

本稿では、輯佚の手始めとして、『医心方』から輯佚した『僧深方』を『医心方』の巻次に従って配列する。底本は『医心方』安政刊本（台湾・新文豊出版のリプリント、一九七六年）を使用、適宜、沈澍衣等校注『医心方校釈』（中国・学苑出版社、二〇〇一年）を参

照した。佚文の中では、本文として取られているものおよび他の文献の本文中に言及されたり、注として『僧深方』が引用されている場合も収めてある。安政刊本で数値が抜けている部分については、(一)中に補っている。また私案を部分的に(一)内に記した。(第二)(第三)などは、引用されている『僧深方』の順番を示したもので、本文ではない。それ以外の(一)内は割注である。

表1は、『医心方』所引『僧深方』総覧で、左から『医心方』の巻次、項目、本文として引用されている『僧深方』の条数、注に引用されている『僧深方』の条数、それぞれの安政刊本の葉数と表裏(表がa、裏がb)、備考を示した。

猶、本文中の「爽師方」は、「深師方」とも呼ばれる『僧深方』との混同か別の書物か、現段階では不明なので、併せて収録している。

現在、『外台秘要方』からの輯佚を行っており、これについても近日公表する予定である。最終的には、他本からも佚文を集め、諸本と校合した上で『僧深方』の輯佚をまとめたい。なお、現在、『僧深方』の本文引用部分のみの輯佚は他でも行われているが、注内に引用された佚文等については目配りがなく、底本等についても曖昧で、『僧深方』復元という観点では、まだ不十分である。

*以下、本文と注では正字体を用いた。

『医心方』所引『僧深方』輯佚 本文

■巻一

○薬斤兩升合法 第七

僧深方云、艾及藥物一莖者、以二升爲正。

■巻三

○治頭風方 第七

僧深方、治頭風方

吳茱萸 三升

以水五升、煮。取三升、以綿染汁、以拭髮根、數用。

○治中風口喎方 第九

僧深方、治風著人面引口偏著牙車急舌不得轉方

竹瀝 一升 獨活 三兩 生地黃汁 一升

凡三物、合煮。取一升、頓服之。

又方

翳風穴灸三壯、主耳聾、口眼爲「口辟」不正、牙車引、口噤不開、瘡不能言。甚神良。

穴在耳後陷者中、按之引耳。

○治中風驚悸方 第十四

僧深方云、定志丸、治恍惚憶忘、胸中恐悸、志不定、風氣干臟方

表1 『医心方』所引『僧深方』総覧

醫心方		僧深方本文	僧深方注	安政刊本文	安政刊本注	備考
卷一	第七 藥斤兩升合法	1		40a		
卷三	第七 治頭風方	1		21a		
卷三	第九 治中風口喎方	2		24a		
卷三	第十四 治中風驚悸方	1		30b		
卷三	第廿 治中風癱病方	2		37a		
卷三	第廿一 治中風言語錯亂方	1		38a		
卷四	第一 治髮令生長方	1		1b		
卷四	第四 治白髮令黑方	1		5b6a		
卷四	第十五 治面肝黧方	1		5b6a		
卷四	第十六 治面鼻皴方	1	1	16b	17a	
卷四	第十八 治癰瘍方	5		19ab		
卷五	第十三 治目不明方	1		12a		
卷五	第十六 治目膚翳方	2		15b16a		
卷五	第四十八 治吐血方	1	1	38a	38a	
卷五	第四十九 治唾血方	1		38b		
卷五	第五十五 治重舌方	1		43b		
卷五	第七十 治喉痺方	1		52b		
卷五	第七十二 治喉咽腫痛方	1		53b		
卷六	第三 治心痛	2		5b		
卷六	第五 治心腹痛	1		10a		
卷六	第六 治心腹脹滿	1		11b		
卷六	第九 治腎著腰痛	1		15a		
卷六	第十 治肝病方	1		16ab		
卷六	第十二 治脾病方	1		18b		
卷七	第三 治陰癢方	3		4b		
卷七	第十五 治諸痔方	1		19a		
卷八	第二十三 治代指方	1		34a		
卷九	第一 治咳嗽方	8		2b/3b/7ab		
卷九	第三 治短氣方	1		10a		
卷九	第七 治淡飲方	1		17a		葛氏方の添え書きあり
卷九	第九 治胃反吐食方	1		20b		
卷九	第十 治宿食不消方		1		24a	
卷九	第十二 治上熱下令不食方	1		26a		
卷九	第十六 治嘔吐方	1		29ab		
卷九	第十七 治乾嘔方	5		31a		
卷十	第一 治積聚方	1		6a		
卷十	第三 治七疳方		1		8b	
卷十	第六 治癰瘕方	1		14ab		
卷十	第十九 治通身水腫方	2		27a		
卷十	第二十 治十水腫方	1		31a		
卷十	第二十一 治風水腫方	2		32b33a		
卷十	第二十三 治身面卒腫方	2		34a		
卷十	第二十五 治黄疸方	3	1	37a		
卷十	第二十六 治黃汗方		1		37b	
卷十	第二十七 治穀疸方	1		37b38a		
卷十	第廿八 治酒疸方	1		38b39a		
卷十一	第二 治霍亂心腹痛方	1		7a		
卷十一	第三 治霍亂心腹脹滿方	1		8b		
卷十一	第六 治霍亂嘔吐不止方	2		10b		
卷十一	第九 治霍亂煩渴方	1		13a		
卷十一	第二十 治冷利方		1		26b27a	

醫心方		僧深方本文	僧深方注	安政刊本文	安政刊本注	備考
卷十一	第二十一 治熱利方		1		29b	
卷十一	第二十六 治白滯利方	2		35b		
卷十一	第二十九 治休息利方	2		37b		
卷十一	第三十四 治不伏水土利方	1		42ab		
卷十一	第三十五 治嘔逆吐利方	1		43a		
卷十一	第三十六 治利兼渴方	2		43ab		
卷十一	第三十八 治利後虛煩方	1		44b		
卷十二	第一 治消渴方	1		4b5a		
卷十二	第十六 治大便秘下血方	2		25ab		
卷十二	第二十一 治小便黃赤白黑方	1		33a		
卷十三	第三 治虛勞夢泄精方	1		11a		
卷十三	第七 治虛勞不得眠方	1		15b16a		
卷十三	第十 治虛汗方	1		18ab		
卷十三	第十一 治風汗方	1		19b		
卷十四	第一 治卒死方	1		4ab		
卷十四	第三 治鬼擊病方	1		7b		
卷十四	第十一 治注病方	1		18b-22b		
卷十四	第十三 治諸瘡方	1	1	28b29a	27b	
卷十四	第十七 治淡實瘡方	1		33a		依仁和寺本補
卷十四	第十八 治勞瘡方	1		34a		
卷十四	第二十一 治連年瘡方	1		36ab		
卷十四	第三十八 治傷寒鼻衄方	3		48b		
卷十四	第四十七 治傷寒交接勞復方	1		52b		
卷十四	第五十一 治傷寒後目病方		1		55a	
卷十五	第二 治癰疽未膿方	1		20a		
卷十五	第三 治癰疽有膿方	1	2	24b25a	22a	
卷十五	第十三 治肺癰方	1		44a		
卷十六	第九 治惡核腫方	3		18b19a		
卷十六	第十三 治瘰癧方	1		24a		
卷十六	第十五 治瘤方	1		28a		
卷十七	第二 治癰瘡方	4		10ab		
卷十七	第四 治惡瘡方	1		15a		
卷十七	第六 治夏熱沸爛瘡方		4		18b	「師說」
卷十七	第八 治王爛瘡方	1		21b		
卷十七	第十三 治癰瘡方	2		27b		
卷十七	第十四 治疽創方	1		28b29a		
卷十七	第十七 治諸瘡中風水腫方	1		32a		
卷十八	第一 治湯火燒灼方	2		4a		
卷十八	第二 治灸創不差方	1		6a		
卷十八	第三十五 治衆蛇螫人方	1		35a		
卷十八	第四十 治蛇骨刺人方	2		39ab		
卷十八	第四十一 治吳公螫人方	1		40a		
卷十八	第五十四 辟蟲毒方	1		57a		
卷二十	第二 治服石煩悶方	1		6b		
卷二十	第五 治服石目痛方	1		9a		
卷二十	第十一 治服石口中傷爛舌痛方	1		11a		
卷二十	第十二 治服石口中發瘡方	1		11b		
卷二十	第十三 治服石心噤方	1		12a		
卷二十	第十四 治服石心腹脹滿方	1		13a		
卷二十	第十五 治服石心腹痛方	1		14b		
卷二十	第二十四 治服石身體強直方	1		21ab		
卷二十	第二十八 治服石上氣方	1		24a		
卷二十	第二十九 治服石淡澀方	1		24b		
卷二十	第三十二 治服石淋小便難方	1		25b		

醫心方		僧深方本文	僧深方注	安政刊本文	安政刊本注	備考
卷二十	第四十一 治服石冷熱不適方	1		31ab		
卷二十	第四十二 治服石補益方	1		31b32a		
卷二十一	第二 治婦人面上黑玃方	2		2b3a		
卷二十一	第五 治婦人乳癰方	4		6a		
卷二十一	第六 治婦人乳創方	1		7b		
卷二十一	第七 治婦人陰癢方	1		8b		
卷二十一	第九 治婦人陰腫方	1		9b		
卷二十一	第十 治婦人陰瘡方	1		10b		
卷二十一	第十四 治婦人陰脫方	1	1	13b		
卷二十一	第二十一 治婦人月水不斷方	2		19a		
卷二十一	第二十二 治婦人月水腹痛方	1		19b		
卷二十一	第二十三 治婦人崩中漏下方	2		22b		
卷二十二	第四 治任婦惡阻方	1		17b		
卷二十二	第五 治任婦養胎方	1		18ab		
卷二十二	第九 治任婦胎墮血不止方	1		22b		
卷二十二	第十 治任婦墮胎腹痛方	1		23a		
卷二十二	第十四 治任婦頓僕舉重去血方	2		25a		
卷二十二	第十八 治任婦心痛方	1		26b		
卷二十二	第二十一 治任婦腰痛方	1		27b		
卷二十二	第三十 治任婦瘡方	1		32ab		
卷二十三	第九 治產難方	4		13a		
卷二十三	第十 治逆產方	1		14b		
卷二十三	第十三 治子死腹中方	3		16a		
卷二十三	第十四 治胞衣不出方	2		18a		
卷二十三	第二十 治產後遲悶方	1		26b		
卷二十三	第二十二 治產後腹痛方	1		29b		
卷二十三	第二十七 治產後中風口噤方	1		33b34a		
卷二十三	第三十六 治產後無乳汁方	2		38b39a		
卷二十四	第一 治無子法	2		3b4a		
卷二十五	第十一 小兒去鵝口方	△		12b		爽師方
卷二十五	第十四 小兒變蒸		1		16b	
卷二十五	第二十 治小兒解顛方	1		21b		
卷二十五	第二十六 治小兒頭瘡方	1		24b		
卷二十五	第五十 治小兒口噤方	1		32b		
卷二十五	第八十四 治小兒脫肛方	1		45b		
卷二十五	第九十五 治小兒瘡病方		(1)		52b	卷十四治諸瘡方第十三集驗方、又方(第三)同方=僧深方
卷二十五	第百十一 治小兒大便血方	1		59a		細字
卷二十五	第百十三 治小兒淋病方	1		59b		細字
卷二十五	第百二十七 治小兒身體腫方	1		66a		
卷二十五	第百五十二 治小兒咳嗽方	1		76a		
卷二十六	第二 美色方	1		13a		
卷二十九	第二十七 治食噎不下方	2	1	35b36a	36a	
卷二十九	第三十七 治食鬱穴漏脯中毒方	1		42a		
卷二十九	第三十九 治食蟹中毒方	1		43b		
卷二十九	第四十 治食諸魚骨哽方	2		44b		
卷二十九	第四十一 治食諸哽方	1		45b		
卷二十九	第四十六 治誤吞針生鐵物方	1		48b		
		200	19			

人參 二兩 茯苓 二兩 菖蒲 二兩 遠志 二兩 防風 二兩
獨活 二兩

凡六物、治下篩、以蜜丸、丸如梧子、服五丸、日再。(今按、范汪方加鐵精一合、細辛四分)

○治中風癱病方 第廿

僧深方、治癱方

水中荷、濃煮、以自漬半日、用。此方多愈。

又方、水中浮青萍、濃煮、自漬之。

○治中風言語錯亂方 第廿一

僧深方、五邪湯、治風邪入人體中、鬼語、妄有所說、悶亂、恍惚不足、意志不定、發來往有時方

人參 三兩 茯苓 三兩 伏神 三兩 白朮 三兩 昌蒲 三兩
凡五物、水一斗、煮。取二升半、去滓、先食服八合、日三。

■卷四

○治髮令生長方 第一

僧深方、生髮澤蘭膏方

細辛 二兩 蜀椒 三升 續斷 二兩 杏人 三升 烏頭 二兩
皂莢 二兩 澤蘭 二兩 石南 二兩 厚朴 二兩 茴草 二兩
白朮 二兩

凡十一物、咬咀、以淳苦酒三升漬銅器中一宿、以不中水脂肪成煎

四斤。銅器中東向竈炊以葦薪、三沸三下、膏成。以布絞去滓、拔白塗之。

○治白髮令黑方 第四

僧深方、欲令髮黑方

八角附子 一枚 淳苦酒 半升

於銅器中、煎令再沸。內好樊石大如博、其石一枚、樊石消盡、內好香脂三兩。和合相得下景地。勸洗脂凝、取置箒中、拔白髮以脂塗其處、日三。

○治面好黧方 第十五

僧深方

桃仁

治下篩、雞子白和以塗面、日四五。

○治面鼻皴方 第十六

僧深方、治查好蠅瘰癧散方、

葵藜子 支子仁 香豉 各一升 木蘭皮 半斤

凡四物、下篩、酢漿和如泥、暮卧塗病上、明旦湯洗去。

千金方、治查鼻支子丸方、

芎藭 四兩 大黃 六兩 支子人 三升 好豉 三升(熬) 木蘭 半斤 甘草 四兩

右六味、蜜和、服十丸如梧子、日(三)。稍稍加至廿五丸。(僧深方云、支子人二升、香豉二升、服十丸、日三。不知增之。)

○治癰瘍方 第十八

僧深方、治癰瘍方、

流黃 一分 礬石 一分 水銀 一分 竈黑 一分

右四物、治末、以葱涕和研、臨卧以傳上。

又方(第二)、

麝脂數摩上。

又云、療身體易斑剝方(第三)、

女萎 一分 附子 一枚(炮) 雞舌香 二分 青木香 二分

麝香 二分 白芷 一分

已上、以臘月猪膏七合、煎五味、令小沸、急下、去滓、內麝香絞調、復煎、三上三下、膏成。

磨令小傷、以傳之。

又方(第四)、

三淋「艸」灰取汁、重淋之。洗歷易訖、醋研木防己塗之、即愈。

又方(第五)、茵陳蒿兩握。

右、以水一斗、煮。取七升、先以皂莢湯洗歷易令傷、然以湯洗之。

■卷五

○治目不明方 第十三

僧深方、治目盲十歲、百醫不能治、鬱金散方

鬱金二兩 黃連二兩 樊石二兩

凡三物、治令篩。臥時着目中、如黍米、日一。

○治目膚翳方 第十六

僧深方、治目白翳方

牡蠣 烏賊 魚骨

分等、下篩。以紛目、日三。亦可治馬翳。

又方(第二)

煮露蜂房、以汁洗之、數數洗良。

○治吐血方 第四十八

僧深方、治吐血方

龍骨多少

治溫消眠、方寸匕日五六、可至三匕、亦治小便血。

○治唾血方 第四十九

僧深方、治唾血方

干地黄 五兩 桂心 一分 細辛 一分 干薑 一分

凡四物、散消、服方寸匕、日三、夜再。

○治重舌方 第五十五

僧深方、治重舌方

燒露蜂房、淳酒和、薄喉下、立愈、有驗。

○治喉痺方 第七十

僧深方、治卒喉痺痰痛不得「口回」唾方

搗茱萸薄之、良。

○治喉咽腫痛方 第七十二

僧深方、治喉咽卒腫痛「口回」唾不得消熱下氣升麻含丸方

生夜干 汁 六合 當歸 一兩 升麻 一兩 甘草 三分

凡四物、下篩、以夜干汁丸之。綿裹如彈丸、含稍咽其汁。日三、夜一。

■卷六

○治心痛 第三

僧深方、治卒心痛方

當歸 二兩 夕藥 一兩 桂心 一兩 人參 一兩 支子 廿一枚

五物、咬咀、以水七升、煮。取二升半、分服五服。

又云、治卅年心痛附子丸方（第二）

人參 二兩 桂心 二兩 干薑 二兩 蜀附子 二兩 巴豆 二兩

凡五物、下篩、蜜丸如大豆、先食、服三丸、日一。神良。

○治心腹痛 第五

僧深方、惡氣心腹痛欲死方

夕藥 一兩 甘草 二兩 桂心 一兩 當歸 二兩

凡四物、水五升、煮。取二升、分再服。

○治心腹脹滿 第六

僧深方、厚朴湯、治腹滿發數十日、脉浮數、食飲如故方

厚朴 半斤 枳實 五枚 大黃 四兩

凡三物、以水一斗二升、煮。取五升、內大黃。大黃微火煎、令得三升。先食、服一升、日三。

○治腎著腰痛 第九

僧深方、茯苓湯、治腎著之爲病、從腰以下冷痛而重如五千錢、腹腫方

飴膠 八兩 白朮 四兩 茯苓 四兩 干薑 二兩 甘草 二兩

凡五物、以水一斗、煮。取三升、去滓、內飴冷拌〔按、原作洋、以意改之〕、分四服。

○治肝病方 第十

僧深方、瀉肝湯、治肝氣實、目赤若黃、脇下急、小便難方

人參 三兩 生薑 五兩 黃芩 二兩 半夏一升 洗 甘草 二兩 大棗 十四枚

凡六物、切、水五升、煮半夏令三四沸、內藥、後內薑、煎。取二升、去滓、分二服、羸人三服。

○治脾病方 第十二

僧深方、溫脾湯、治脾氣不足、虛弱、下利、上入下出方、

干姜 三兩 人參 二兩 附子 二兩 甘草 三兩 大黃 三兩

凡五物、切、以水八升、煮。取二升半、分三服。應得下、去毒、實甚良。

■卷七

○治陰癰方 第三

僧深方、治陰下濕癰生瘡方

吳茱萸 一升

凡一物、以水三升、煮三沸、以去滓、洗瘡愈。

又方（第二）、

蒲黃粉瘡上、日三過、即愈。

又方（第三）、

甘草 一尺

凡一物、水五升、煮。取三升、洗漬之。日三、便愈、神良。

○治諸痔方 第十五

僧深方、治痔神方

槐耳為散、服方寸匕。亦粉穀道中。甚良。

■卷八

○治代指方 第二十三

僧深方、代指方

作艾主、正灸痛上七壯。

■卷九

○治咳嗽方 第一

僧深方云、熱咳、唾粘而如飴。冷咳、唾清澄如水。

僧深方、紫菀丸、治咳嗽上氣、喘息多唾方（第二）

紫菀 款冬花 細辛 甘皮（一名橘皮） 干姜（各二兩）

右五物、丸如梧子、三丸、先食服、日三。

又方（第三）、

如櫻桃大、含一丸、稍咽其汁、日三。新久嗽、晝夜不得卧、咽中

水雞、聲欲死者、治之、甚良。（今案、耆婆方為散、以白飲服一方寸

匕。）

僧深方、治新久嗽、芫花煎方（第四）

芫花 二兩（末） 干姜 二兩 白蜜 二升

凡三物、內於蜜中、微火煎、服如棗核一枚、日三。

灸咳嗽法

僧深方（第五）云、

灸近兩乳下黑白肉際紋百壯、即日愈。（汜汪方同之。）

又方（第六）

以繩當乳頭圍周身、令前後平正、當乳脊骨解中灸之、九十壯。

又方（第七）

橫度口、中折繩、從脊灸繩兩邊、灸八十壯、三日、報畢。

又方（第八）

從大椎數下行、第五節下・第六節上、穴間中一處、灸隨年壯、並治上氣、秘方。

○治短氣方 第三

僧深方、治短氣欲絕、不足以息、煩擾、益氣止煩竹根湯方

竹根 一斤 麥門冬 一升 甘草 二兩 大棗 十枚 粳米 一升 小麥 一升

凡六物、水一斗、煮麥米熟、去之、內藥、煮。取二升七合、服八合、日三。不能飲、以綿滴口中。

○治淡飲方 第七

僧深方、治五飲酒癖方

白朮（一斤） 桂心（半斤） 干薑（半斤）

三物、治下節、蜜和、丸如梧子。飲服十丸、不知稍增。初服、當取下、先食服、日再。

○治胃反吐食方 第九

僧深方、治胃反吐逆不安穀、枳子湯方

陳枳子（頭注、本草注云、陳者、謂三年五年者也） 一枚（治下節）

美豉 一升 茱萸 五合（去目、汙）

三物、枳茱萸合治爲散、以水二升半、煮豉三四沸、漉去滓、汁著銅器中、乃內散如鷄子、攪合、和合頓服之。羸人再服。

○治宿食不消方 第十

葛氏方、治脾胃氣弱、穀不得下、遂成不復受食方

大麻子人 一升 大豆黃卷 二升

並熬令黃香、搗篩、飲服一二方寸匕、日四五。（今案、僧深方、大麻子人三升、大豆二升、調中下氣、調冷熱、利水穀。）

○治上熱下冷不食方 第十二

僧深方、茱萸丸、治膈上冷膈下熱、宿食澀飲、積聚（積聚、由陰陽不和、府藏虛弱、受於風邪、搏於府藏之氣、所爲也。又云、云、積聚、風熱集腫也。）食不消、寒在胸中、或反胃害食瘠瘦方

茱萸 二兩 椒 一兩半 黃芩 一兩 前胡 一兩 細辛 六分

皂莢 二枚 人參 三分 茯苓 一兩半 附子 一兩 干薑 六分 半夏 一兩

凡十一物、下篩、丸以蜜、服如梧子三丸、日三。不知稍增之。

○治嘔吐方 第十六

僧深方、生薑湯、治食已吐逆方。

生薑 五兩 茯苓 四兩 半夏 一升 橘皮 一兩 甘草 二兩

五種、水九升、煮。取三升七合、分三服。

○治乾嘔方 第十七

僧深方、治胃逆乾嘔、欲嘔而無所去、人參湯方

人參 二兩 干薑 四兩 澤瀉 二兩 桂心 二兩 甘草 二兩 茯苓 四兩 大黃 一兩

八物、以水八升、煮。取三升、服八合、日三。

又云（第二）茱萸湯、治乾嘔吐涎沫、煩心頭痛方

茱萸 半斤 大棗 十枚 人參 三兩 生薑 六兩

凡四物、以水六升、煮取二升五合、日三服。

又云（第三）

茱萸 一升 大棗 十二枚

以水七升、煮。取二升半、分三服。

又云（第四）

半夏・干薑分等爲散、服方寸匕。

又云（第五）

生薑汁 五合 蜜 四合

二物、先煎蜜、減一合、竟、投薑汁、復煎數沸、稍稍啖之。勿久。

久則口強不可啖。

■卷十

○治積聚方 第一

僧深方、治心下支滿痛、破積聚、咳逆不受食、寒熱喜噎方

蜀椒 五分 干姜 五分 桂心 五分 烏頭 五分

右四物、治合、下篩、蜜和。丸如小豆、先輔食、以米汁服一丸、

日三夜一。不知、稍增一丸。以治爲度。禁食飲。

○治七疝方 第三

錄驗方、七疝丸、治人腹中有大疾、厥逆心痛、足寒冷、食吐不下、

名曰厥疝。腹中氣乍滿、心下盡痛、氣積如臂、名曰癥疝。寒飲食即脇下腹中盡痛、名曰寒疝。腹中乍滿乍減而痛、名曰氣疝。腹中痛在齊左傍、名曰盤疝。腹痛齊右下、有積聚、名曰附疝。腹與陰相引而痛、大行難、名曰狼疝。治之方。

人參 五分 桔梗 五分 黃芩 五分 細辛 五分 干姜 五分
蜀椒 五分 當歸 五分 芍藥 五分 厚朴 五分 烏頭 五分

凡十物、治下篩、和以白蜜、丸如梧子、先食、服四丸、日三。不知、稍增。禁生魚猪犬。

（今案、深師方有八物、桔梗、細辛、桂心、芍藥、厚朴、黃芩各一兩、蜀椒二兩半、烏喙二合、服三丸、日三。汜汪方有十二物、蜀椒五分、干姜四分、厚朴四分、桔梗二分、烏喙一分、黃芩四分、細辛四分、芍藥四分、桂心二分、柴胡一分、茯苓一分、牡丹一分、先輔食、以酒服七丸、日三。）

○治癥瘕方 第六

僧深方云、消石大丸、治十二癥瘕、及婦人帶下、絕產無子、及服寒食藥而腹中有癥瘕僻實者、當先服消石大丸、下之。此丸不下水穀、但下病耳。不令人極也。

河西大黃 八兩 朴硝 六兩 上黨人參 二兩 甘草 三兩

凡四物、皆各異搗下篩、以三歲好苦酒置銅器中、以竹箸柱銅器中、一升作一刻、凡三刻、以置火上。先內大黃、使微沸、盡一刻、乃內

餘藥。復盡一刻、餘有一刻、極微火、便可丸、乃令如鴨子中黃。欲熬藥、當先齋戒一宿、勿令小兒婦女奴婢見也。欲服者二丸、若不能服大丸、可分作四丸。不可過四丸、藥丸欲大、不欲令細、能不分又善。若盡羸者可小食、強者不須也。若婦人服、下者如鷄肝如米汁、正黑、或半升、或三升、下後慎風寒、作一杯酒粥食之、然後、作羹臠自養如產婦法。六月則有子。

禁生魚、猪肉、辛菜。若復寒食藥者如法、不與餘同也。

○治通身水腫方 第十九

僧深方、治通身水腫、大小便不利方、

常陸根 三升(薄切) 赤小豆 一斗

凡二物、水一斛、煮。取一斗、稍飲汁食豆、以小便利為度。

又云、治大水面目身體手足皆腫方(第二)

大戟 (一)分 葶藶 三分(熬) 苦參 一分 蔥花 一分

凡四物、治下篩、以小麥粥服方寸匕、良效。

○治十水腫方 第二十

僧深方、治身體浮腫十水散方

芫花 三分 決明 三分 大戟 三分 石韋 三分(去毛) 巴

豆 三分(去心) 澤瀉 三分 大黃 三分 鬼臼 三分 甘遂

三分 亭歷 三分

凡十物、治下篩、以大麥粥清汁服方寸匕、日三。

○治風水腫方 第二十一

僧深方、治風水腫、癰癤、常陸酒方

常陸根 一升(切)

凡一物、以淳酒二斗、漬三宿、服一升、當下。下者減從半升起、日三。不堪酒者、以意減之。

又云、治通身腫、皆是風虛水氣。亦治暴腫痛、蒲黃酒方(第二)

蒲黃 一升 小豆 一升 大豆 一升

凡三物、清酒一斗、煮。取三升、分三服。

○治身面卒腫方 第二十三

僧深方、治暴腫方

破雞子攪、令其黃白塗腫上、燥復塗、大良。

又方(第二)

大豆一升、熟煮、飲汁食豆。不過三作、良。

○治黃疸方 第二十五

僧深方、灸第七椎上下。(主黃汗。)

又方(第二)、屈手大指灸節上理各七主。

又方(第三)、灸脊中椎七主。

經心方、灸兩手心各七壯。(僧深方同。)

○治黃汗方 第二十六

醫門方、療黃汗、黃汗之病、狀如風水、其脉沉遲、皮膚冷、手足微厥、面目四支皮膚皆腫、胸中滿方

夕藥 八兩 桂心 三兩 黃耆 五兩 苦酒 五合

以水七升、煮。取三升、飲一升、心當煩、勿怪、至六七日、即差。
(今案、葛氏方、夕藥三兩、苦酒一升。僧深方、苦酒二升、水一斗。)

○治穀疸方 第二十七

僧深方、治穀疸發寒熱、不可食、食即頭眩、心中怫冒不安、大茵陳湯方

茵陳蒿 二兩 黃蘗 二兩 大黃 一兩 甘草 一兩 人參 一兩 支子 十四枚

黃連 一兩

凡七物、切、水一斗、煮。得三升。分三服。

○治酒疸方 第廿八

僧深方、治酒疸方

生艾葉 一把 麻黃 二兩 大黃 六分 大豆 一升

凡四物、清酒三升、煮取二升、分三服。

艾葉無生、用干半把。

■卷十一

○治霍亂心腹痛方 第二

僧深方、治霍亂腹痛而煩方

高良姜 四兩

以水五升、煮。取二升、分二服。

○治霍亂心腹脹滿方 第三

僧深方、治霍亂腹脹滿不得吐方

梁米粉 五合

以水一升半、和如粥、頓服。須臾吐、若不吐、難治。

○治霍亂嘔吐不止方 第六

僧深方、治霍亂煩痛、嘔吐不止、並轉筋方

生香薷 一把 桂心 二兩 生姜 三兩

三物、以水七升、煮。取二升、分二服、甚良。

又云、霍亂嘔吐、水藥不下茱萸湯方(第二)

茱萸 一升 黃連 二兩 附子 一兩 甘草 一兩 生姜 三兩

凡五物、以水七升、煮。取三升、分三服。

○治霍亂煩渴方 第九

僧深方、霍亂吐後煩而渴方

紫蘇子 一升

水五升、煮。取二升、分二服。無子、取生蘇一把、水四升、煮一

升半、分二服。

○治冷利方 第二十

氾汪方、又云、四順湯治逆順寒冷凍飲料食不調下利方(第二)、

甘草 三兩 人參 二兩 當歸 二兩 附子 一兩 干姜 三兩

凡五物、水七升、煮。取二升半、分三服。(今按、僧深方加龍骨二

兩。)

○治熱利方 第二十一

千金方、治久利熱諸治不差方、

烏梅炭 一升、熬 黃連 一斤、金色者

二味、蜜和如梧子、服廿丸、日三夜一、神良。僧深方同之。

○治白滯利方 第二十六

僧深方、治赤白滯下久不斷、穀道疼痛不可忍方

宜服溫藥、熬鹽熨之。

又方（第二）

炙枳實熨之。

○治休息利方 第二十九

僧深方、治休息下方

煮小豆一升、和臘三兩、頓服、驗。

又方（第二）、

煮韭、空腹一碗熱服、不過再、驗。

○治不伏水土利方 第三十四

僧深方、治諸下利、胡虜之人不習食穀下者方用

白頭公 二兩 黃連 四兩 秦皮 二兩 黃蘗 二兩

凡四物、以水八升、煮。取二升半、分三服。

○治嘔逆吐利方 第三十五

僧深方、治胸脇有熱、胃中支滿、嘔吐下利方

黃芩 二兩 人參 一兩 甘草 一兩 桂心 一兩

凡四物、水八升、煮。取四升、分四服、日三夜一。

○治利兼渴方 第三十六

僧深方、治少陰泄利不絕、口渴、不下食、虛而兼煩方

附子 一枚 干姜 半兩 甘草 二分 葱白 十四枚

凡四物、以水三升、煮。取一升、二服。先渴後嘔者、心有停水。

一方加犀角一兩。

又方（第二）、

厚朴、炙、搗末、酒服方寸匕、日五六。

○治利後虛煩方 第三十八

僧深方、治大下後虛煩不得眠、劇者顛倒懊欲死方

支子 十四枚（擘） 好豆豉 七合

凡二物、水四升、先煮支子、令餘二升半汁、乃內豉、二三沸、去

滓、服一升。一服安者、勿復服。若上氣嘔逆、加橘皮二兩、亦可加

生薑。

■卷十二

○治消渴方 第一

僧深方、治消渴唇干口燥、枸杞湯方

枸杞根 五升（剝皮） 石膏（一名細石） 一升 小麥 三升（二

方小豆）

凡三物、切、以水加上沒手、合煮、麥熟湯成、去滓、適寒溫、飲

之。

○治大便下血方 第十六

僧深方、治卒下血、蒲黃散方

甘草 一分 干姜 一分 蒲黃 一分

凡三物、下篩、酒服方寸匕、日三。

又方、治卒註下並下血、一日一夜數十行方（第二）

灸齊中及臍下一寸各五十壯。（今案、葛氏方、以錢掩齊上、灸錢下際、五十壯。）

○治小便黃赤白黑方 第二十一

僧深方、治膀胱急熱、小便黃赤、滑石湯方

滑石 八兩（碎） 子芩（一名黃芩） 三兩 車前子 一升 葵子

一升 榆皮

四兩

凡五物、以水七升、煮。取三升、分三服。

■卷十三

○治虛勞夢泄精方 第三

僧深方云、禁精湯、主失精羸瘦、酸消少氣、視不明、惡聞人聲方、

韭子 二升 生粳米 一升

二物、合於器中熬之、米黃黑及熟、急以淳佳酒一斗投之、絞取七升、服一升、日三、二劑便愈。

○治虛勞不得眠方 第七

僧深方、小酸棗湯、治虛勞臟虛、意不得眠、煩不寧方

酸棗 二升 「虫是」母 二兩 干姜 二兩 甘草 一兩 茯苓

二兩 芎藭 二兩

凡六物、切、以水一斗煮棗、減三升、分三服。

○治虛汗方 第十

僧深方、治大虛汗出欲死、若白汗出不止方

麻黃根 二兩

凡一物、以清酒三升、微火煮。得一升五合、去滓、盡服之。

○治風汗方 第十一

僧深方、治風汗出少氣方

防風 十分（一方三兩） 白朮 六分（一方三兩） 牡蠣 三分（一

方三兩）

凡三物、治篩、以酒服方寸匕、日三。

■卷十四

○治卒死方 第一

僧深方、治卒死中惡、雷氏千金丸方

大黃 五分 巴豆 六十枚 桂心 二分 朴硝 三分 干薑 二

分

凡五物、治下篩、和白蜜治三千杵、服如大豆二丸、老小以意量之。

○治鬼擊病方 第三

僧深方、治鬼擊方

鹽一升、水二升和之、攪令釋、作汁飲之、令得吐則愈。良。

○治注病方 第十一

僧深方云、西王母玉壺赤丸、備急治屍注、卒惡、水陸毒螫（丑略反）萬病方、武都雄黃 一兩（赤如雞冠） 八角大附子 一兩（炮、稱） 藜蘆 一兩 上丹砂 一兩（不使有石者） 白礬石（練之一旦一夕） 巴豆 一兩（去皮、熬令紫色稱之。一方有真朱一兩）

凡六物、悉令精好、先治巴豆三千杵。次內礬石、治三千杵。次內藜蘆、治三千杵。次內雄黃、治三千杵。次內白蜜、治三千杵、亦可從更治萬杵最佳。有可真朱一兩者、若不用丹沙而內真朱二兩無在也。生礬石、黑礬石皆可用、不必白色者。巴豆勿用兩人者。

又方（第二）

別搗藜蘆、附子。下篩、乃更稱之。

又一方（第三）

每內藥輒治五百杵、輒內少蜜、恐藥飛。搗都畢、乃更治萬杵。

合藥、得僮子治之。無僮子、但凡人三日齋戒律、乃使之。

合藥、用建・除日、天清无雲霧日、向月建。

藥成、密之、勿令泄、着清潔處。

大人服之、皆如小豆、但丸數亦无常。

此藥治萬病、无所不主。方上雖不能俱載、故略說耳。

若本病將服者、禁食生魚、生菜、猪犬。

服以下病者、宿勿食、明旦服二丸。不知者、飲暖米飲以發之、令下。下不止、飲冷水飲止之。

病在膈上吐、膈下者下、或但噫氣而愈。

或食肉不消、腹堅脹、或痛。服一丸立愈。

風疝・寒疝・心疝・弦疝、每諸疝發、腹中急痛、服二丸。

積、寒熱、老痞、蛇痞、服二丸。

腹脹、不得食飲、服一丸。

卒大苦、寒熱往來、服一丸。

卒關格、不得大小便、欲死、服二丸。

瘕結、服一丸、日三服。取愈。若微者射「艸罔」丸甚良。

下利重下、服一丸便斷。或復天行、下便斷。

瘡、未發服一丸、已發服二丸、便斷。

小兒百病驚癇痞寒中、及有熱、百日半歲者、以一丸如黍米、著乳頭與服之。一歲以上服如麻子一丸、日三。皆以飲服。

小兒大腹及中熱惡毒、食物不化、結成堅積、皆令將服一丸、亦可

以塗乳頭、使小兒乳之。

傷寒敕（絡代反、勞也）色及時氣病、以溫酒服一丸、厚覆取汗即

瘥。若不汗、復酒服一丸、要取汗。

欲行視病人、服一丸、以一丸着頭上、行无所畏。

至死喪家帶一丸、辟百鬼。

病苦淋路瘠瘦、百節酸疼、服一丸、日三。

婦人產生餘疾、及月水不通、及來往不時、服二丸、日二。

卒霍亂、心腹痛、煩滿吐下、手足逆冷、服二丸。

注病百種、病不可名、將服二丸、日再。

若腹中如有蟲欲鑽脇出狀、急痛、一止一作、此是風氣、服二丸。

若惡瘡不可名、「尸島」疥疽、以膏若好苦酒和藥、先鹽湯洗瘡去痂、

拭令燥、以藥塗之即愈。

惡風游心、不得氣息、服一丸即愈。

耳出膿血汁及卒聾、以赤穀裏二丸、塞耳孔中即愈。

癰腫瘰（昨示反）癰（音節）瘰及欲作瘰、以苦酒和藥塗之。

齒痛、以小丸綿裹著齒孔中咋之。

若寒熱往來、服二丸。

若蛇蝮蜂蝎螫所中（傷也）、及獾犬狂馬所咋、以苦酒和塗瘡中、

並服二丸即愈。

卒中惡欲死、不知人、以酒若湯水和二丸、強開口灌喉中、捧坐令

下。

若獨宿止林澤之中、若冢墓間、燒一丸、百鬼走去、不敢近人。

癰飲、留飲、痰飲、服一丸。

以臘和一丸如彈丸。著絳囊中以系臂、男左女右。山精鬼魅皆畏之。

中溪水毒、服二丸。

已有瘡在身、以苦酒和三四丸、塗瘡上。

憂患之氣、結在胸中、苦連噫及咳、胸中刺痛、服如麻子三丸、日

三、愈。

婦人胸中苦滯氣、氣息不利、小腹堅急、繞臍絞痛、漿服如麻子一

丸、稍增之如小豆。

心腹常苦切痛及中熱、服一丸如麻子、日三服、五日愈。

男女邪氣、鬼交通、歌哭無常、或腹大經絕、狀如任身、皆將服三

丸如胡豆大、日三夜一。

又以苦酒和之如飴、旦旦以塗手間使、心主暮、又夕夕以塗足三

陰交及鼻孔、七日愈。

又將服如麻子一丸、日三、卅日止。

腹中三蟲、宿勿食、明平旦進牛羊肉、炙三膊、須臾便服三丸如胡

豆、日中當下蟲。過日中不下、復服二丸、必有爛虫下。

小兒寒熱頭痛、身熱及吐衄、一服一丸如麻子。

小兒疳瘦、丁奚不能食、食不化、將服二丸、日三。又苦酒和如飴

塗、塗兒腹良。

風目赤或痒、視漠漠、淚出爛眦、以蜜解如飴、以塗注目。

頭卒風腫、以苦酒若膏和塗之、即愈。

風頭腫、以膏和塗之、以絮裹之。

若為蝮毒所中、吐血、腹內如刺、服一丸如麻子、稍益至胡豆、亦

以塗鼻孔中、以膏和、通塗腹背、又燒之、薰口鼻。

治鼠瘻、以脂和塗瘡、取駁舌狗子舐之、即愈也。

○治諸瘡方 第十三

集驗方、又方（第三）、

桃葉二七枚、安心上、艾灸葉上十四壯。（僧深方同之。）

僧深方、治一切諸瘡無不斷、恒山丸方

大黃 一兩（二方二兩） 附子一兩（炮） 恒山 三兩 龍骨

一兩

凡四物、治合、下篩、蜜和。平旦服如梧子七丸、未發中間復服七

丸、臨發復七丸。若不斷、至後日復發、更復如此法、甚神良。

○治淡實瘡方 第十七

僧深方、治瘡、膈痰不得吐、吐之湯方

桂心（半兩） 恒山（半兩） 烏頭（半兩） 芫花（半兩） 豉（五

合）

右五物、以酒三升、水四升、令煮取二升、分三服、得吐。

○治勞瘡方 第十八

僧深方、治勞瘡、桃葉湯方

桃葉 十四枚 恒山 四兩

凡二物、酒二升、漬一宿、露著中庭、刀著器上、明旦發日、凌晨澆去滓、微溫令暖、一頓服之、必吐、良。

○治連年瘡方 第二十一

僧深方、治卅年瘡、龍骨丸神方

龍骨 四分 恒山 八分 附子 三分 大黃 八分

凡四物、治篩、鷄子和、發前服七丸如大豆、臨發服七丸。

○治傷寒鼻衄方 第三十八

僧深方、治熱病鼻衄多者、出血一二斛方。

蒲黃五合、以水和、一飲盡即愈。不差、別依諸衄方。

又方（第二）

燒牛糞作灰、服方寸匕。

又方（第三）

以冷水洗、佳。

○治傷寒交接勞復方 第四十七

僧深方、婦人時病毒未除、丈夫因幸之、婦感動氣泄、毒即度著丈夫、名陰易病也。丈夫病毒未除、婦人納之、其毒度著婦人者、名陽易病也。

陰易病者、婦人陰毛十四枚燒服之。

陽易病者、燒丈夫陰毛十四枚服也。

○治傷寒後日病方 第五十一

葛氏方、治毒病後毒攻目方

煮蜂房以洗之、日六七。（今案、廣利方云、蜂巢半大兩、水二大升云々。僧深方治翳。）

■卷十五

○治癰疽未膿方 第二

僧深方、治癰方

梁上塵、燒葵末分等、苦酒和傳之、燥復傳。治乳癰亦愈。

○治癰疽有膿方 第三

劉涓子、治癰疽發背已潰未潰生肉排膿散方（第三）

當歸 二兩 桂心 二兩 人參 二兩 芎藭 一兩 厚朴 一兩

防風 一兩 甘草 一兩 白芷 一兩 桔梗 一兩

右九物、搗下篩。溫酒服方寸匕、日三夜再。瘡未合、可長服之。

（今案、僧深方治癰腫自潰長肉排膿蜀椒散方

蜀椒 桂心 甘草 干薑 芎藭 當歸 各二兩

凡六物、服法如上。

又方（第二）、治癰腫排膿散方、

黃耆 四分 芍藥 二分 白斂 二分 芎藭 二分 赤小豆 一分

凡五物、治下、服如上。）

僧深方、治癰疽、瘡臭爛、洗瘡青木香湯方

青木香 一兩 芍藥 一兩 白斂 一兩 芎藭 一兩

凡四物、水四升、煮。取二升、去滓。溫洗瘡、日三。明日以膏內

瘡中、日三。

○治肺癰方 第十三

僧深方、治肺腸癰、經時不差、桔梗湯主之方

桔梗 三兩 甘草 薏苡人 敗醬 干地黄 朮 各二兩 當歸

一兩 桑根皮 一升

凡八物、切、以水一斗五升、煮大豆四升、取七升汁、去豆、內清

酒三升、合藥煮。取三升半、去滓、服七合、日三夜再。禁生菜。

■卷十六

○治惡核腫方 第九

僧深方、凡得惡腫皆暴卒、初始大如半梅桃、或有核、或无核、或痛、或不痛、其長甚速、須臾如雞鴨大、即不治之、腫熱為進、煩悶拘攣、腫毒內侵、填塞血氣、氣息不通、一再宿便煞人。

初覺此病、便急宜灸、當中央及繞腫邊灸之、令相去五分、使周圍腫上、可三七壯。腫盛者多壯數為差。腫進者、逐灸前際、取住乃止。

又方（第二）、

鯽魚搗、薄腫上。

又方（第三）、

啖鯽魚膾、蒜齏。

○治療癰方 第十三

僧深方、治諸癰因瘡壯熱方

白斂灰 二升

右一物、沸湯和如糜、熱以掩其上。甚良。

○治瘤方 第十五

僧深方、治血瘤方

鹿突割、炭火炙令熱、掩上、擣之。冷復灸、令肉燒燥、可四灸四易之。若不除、灸七主、便足也。

■卷十七

○治癬瘡方 第二

僧深方、治癬方

末雄黃、酢和、先以布拭瘡令傷、以藥塗上、神效、不傳。

又方（第二）

附子一枚、皂莢一枚、九月九日茱萸四合。

右三物、下篩為散、搔癬上令周遍、汁出、以散敷之。若干癬、以

苦酒和散、以塗其上、神良、秘方。

又云（第三）、治癬積年不愈方

取鯰、炙而食之、勿食鹽、酢。三過三食便愈、當時乃當小盛、此

欲愈也。

又云（第四）、治蝸癬浸淫日長、痒痛、搔之黃汁出、差復發方

日未出時、北向取羊蹄根、勿令婦人小兒見、洗去土、切搗、淳苦

酒和洗瘡、去痂以傳上一時、間以冷水洗之、日一傳。又可取根搯之、

神良。

日未出取者、不欲歇加根上。

○治惡瘡方 第四

僧深方、治惡瘡肉脫出方

烏頭末、以傳瘡中、惡肉立去。佳。

○治夏熱沸爛瘡方 第六

令李方、治人身體熱沸生瘡方

礬石 四兩（熬）白善 六兩（熬）

凡二物、治飾、先以布拭身、乃以藥粉之、日二。

（今案、師說（愚按、深師方歟）云、嚼瘡者、風邪在皮肉間、夏時蒸熱

氣時成瘡、如風矢、

先痒後痛。色赤白、隱疹如粟米大、治之方

柚葉、煮水洗之。

又方（第二）

煮支子葉洗之、亦研支子粉之。

又方（第三）

粟粉敷之。

若熱盛赤血者方（第四）

莽草春絞、塗、並煮洗之。

○治王爛瘡方 第八

僧深方、治王爛瘡方

胡粉 燒令黃 青木香 龍骨 滑石（各三兩）

右四物、治飾畢、以粢粉一升和之、稍稍粉瘡上、日四五、愈。

○治癩瘡方 第十三

僧深方、治癩方

取石上菖蒲、搗、豬膏和、付瘡、厚二分、先洗去痂。

又方（第二）

灸瘡上、最良。

○治疽創方 第十四

僧深方、治男女面疽、瘰癧、癰疽諸瘡方

附子 十五枚 蜀椒 一升 治葛 一尺五寸(去心)

右三物、咬咀、以苦酒漬一宿、猪膏二升、煎附子、黃膏成、摩瘡。

亦治傷寒、宿食不消、酒服如棗、覆取汗。

○治諸瘡中風水腫方 第十七

僧深方、治創中風水腫方

炭白灰 一分 胡粉 一分

凡二物、以猪脂和塗創腫孔上、即水出痛止。大良。

■卷十八

○治湯火燒灼方 第一

僧深方、治火瘡方

醬清和蜜塗、良。一分醬、二分蜜合和。

又方(第二)

猪膏煮柏皮、傳之。

○治灸創不差方 第二

僧深方、治灸瘡不差方

白蜜 一兩 烏賊魚骨 二銖

二物、和調、塗瘡上。

○治衆蛇螫人方 第三十五

僧深方、治衆蛇螫人方

以頭垢着瘡中、大良。

○治蛇骨刺人方 第四十

僧深方、治蛇牙折肉中不出方

取生鼠熱血塗瘡、以綿包之、二日出。

又(第二)

蛇骨刺人、取雄黃如大豆、內瘡中。

○治臭公螫人方 第四十一

僧深方云、

消蜡蜜浸傷中。良。

○辟蠱毒方 第五十四

僧深方、治卒急蠱吐欲死方

生索濯若根莖、搗絞取汁得一升、頓服之。不過再三作。神良。

■卷二十

○治服石煩悶(莫圍反)方 第二

僧深方、解散甘草湯、治散發煩悶不解方

甘草 一兩半 茯苓 一兩 生姜 一兩

凡三物、以水三升、煮。取一升半、分三服。

(今案、小品方、甘草 二兩 黃芩 二兩 大黃 二兩、水五升、煮。

取二升、分三服。）

○治服石目痛方 第五

僧深方、治散家目赤痛蕤（蕤、儒佳反）人洗湯方

蕤仁 二十枚 細辛 半兩 苦竹葉 一枚 黃連 一兩

凡四物、水三升、煮。取一升半。一方取半升。可日三洗、亦可六七洗。

○治服石口中傷爛舌痛方 第十一（九）

僧深方、解散支子湯方

黃芩 三兩 支子 四枚 豉 三升

凡三物、咬咀、以水五升、先煮梔子・黃芩、令得三升、絞去滓、乃內豉、煮令汁濃。絞去滓、平旦服一升、日三。甚良。

○治服石口中發瘡方 第十二（十）

僧深方云、解散失節度、口中發瘡方

黃芩 三兩 升麻 二兩 石膏 五兩（末）

凡三物、以水六升、煮。取三升、去滓、極冷、以嗽（桑濃反）口中、日可十過。（小品方、若喉咽有瘡、稍稍咽之。佳。）

○治服石心噤方 第十三（十二）

僧深方云、解散人參湯、常用驗。治心噤或寒噤不解方

人參 二兩 干薑 一兩 甘草 三兩 茯苓 一兩 栝樓 二兩
白朮 一兩 枳實 一兩

凡七物、水六升、煮。取二升五合、分三服。

○治服石心腹脹滿方 第十四

僧深方、解散三黃湯、治散發心腹痛、脹滿卒急方

大黃 黃連 黃芩（各三兩）

凡三物、以水七升、煮。取三升、分三服、得下、便止。
（今案、三黃湯亦出小品方、在上除熱篇。）

○治服石心腹痛方 第十五

僧深方云、若散發、悉口噤心痛、服葱白豉湯方

葱白 半斤 豉 三升 甘草 二兩 生麥門冬 四兩（去心）

凡四物、以水五升、煮。取二升、分再服。（二方加茱萸一升。）

○治服石身體強直方 第二十四

僧深方云、治散發卒死、身體強直、以手着口上、如尚有微氣、即便兩人汲水灌、灌洗亦兩三時、間死者乃戰、戰便令人扶曳行、便得食。食竟復勞、行半日許便愈。此藥失節度、所為似中惡。解之方

黃連 大黃 黃芩（各二兩） 豉 一升 梔子人 十四枚

凡五物、以水七升、煮。取三升半、去滓、內豉、更煮。取三升、三服。近有用此湯、即得力也。

○治服石上氣方 第二十八

僧深方、竹葉湯、治散發上氣方、

生竹葉 二兩 甘草 一兩 黃芩 一兩 大黃 一兩 支子 十枚 茯苓 一兩 干地黃 六分

凡七物、以水五升、煮。取二升一合、服七合、日三。

○治服石淡澀方 第二十九

僧深方、服散家痰悶、胸心下有阻痰客熱者、吐之方、

甘草 五兩

以酒五升、煮。取二升半、分再服。欲吐者、便快蕩去。

○治服石淋小便難方 第三十二

僧深方、治散發小便難、其狀如淋方、

葵子 五合

凡一物、以水二升半、煮取一升、一服晝〔愚按、盡數〕、須臾便利也。

○治服石冷熱不適方 第四十一

僧深方、解散人參湯、治散發作冷熱不適方

人參 二兩 白朮 二兩 枳實 二兩 枳樓 二兩 干薑 二兩

甘草 二兩

凡六物、以水八升、煮。取二升半、分三服。

○治服石補益方 第四十二

僧深方、解散、散內補、治百病、巨勝湯方

胡麻 一升（熬） 生地黄 一升（切） 大棗 廿枚 夕藥 一

兩 生姜 四兩 甘草 一兩 麥門冬 四兩 桂心 一兩 人參

一兩 細辛 一兩

凡十物、以水九升、煮。取四升、分四服。

■卷二十一

○治婦人面上黑方 第二

僧深方、治婦人面黧方、

取茯苓、治飾、蜜和、以塗面、日四五。

又方（第二）

取桃人、治飾、雞子白和、以塗面、日四五。

○治婦人乳癰方 第五

僧深方、治乳癰方

末黃蘗、雞子白和、塗之。

又方（第二）

搗根、敷之。

又方（第三）

赤小豆末、雞子白和、薄之。

又云、治婦人乳癰生核、積年不除、消核防風湯方（第四）

莽草 八分 芎藭 八分 大黃 十分 當歸 十分 防風 十分

夕藥 十分 白薇

十分 黃耆 十二分 黃連 十分 黃芩 十分 枳子中人 四分

十一物、治飾、以雞子白和、塗故布若練上、以薄腫上、日四五、

夜三。

○治婦人乳創方 第六

僧深方、取韭根燒、粉創。良。

○治婦人陰癢方 第七

僧深方、婦人陰癢方

黃連 黃蘗 各二兩

以水三升、煮。取一升半、溫洗、日三。

○治婦人陰腫方 第九

僧深方、陰腫痛方

黃芩 一分 礬石 一分 甘草 二分

下篩、如棗核、綿裹、內陰中。

○治婦人陰瘡方 第十

僧深方、女子陰中瘡方

裏礬石末、如棗核、內陰中。

○治婦人陰脫方 第十四

葛氏方、治婦人陰脫出外方

水煮生鐵、令濃、以洗之。礬石亦良。(僧深方、同之。)

僧深方、治婦人子臟挺出、蛇床洗方

蛇床子 一升 酢梅 二七枚

二物、水五升、煮。取二升半、洗之、日十過。

○治婦人月水不斷方 第二十一

僧深方、治婦人月水不止方

黃連、治、下篩、以三指撮、酒和服。不過再三。

又方(第二)

服淳酢一杯、不差、更服。

○治婦人月水腹痛方 第二十二

僧深方、治月經至絞痛、欲死、茯苓湯方

茯苓 三兩 甘草 二兩 夕藥 二兩 桂心 二兩

凡四物、切、以水七升、煮。取二升半、分三服。

○治婦人崩中漏下方 第二十三

僧深方、治崩中方

桑耳 干薑 分等

下篩、酒服方寸匕、日四五。

又方(第二)

白茅根二十斤 小薊根十斤

搗、絞取汁、煮。取五升、服一升、日三四。

■卷二十二

○治任婦惡阻(側呂反、病)方 第四

僧深方云、治婦人任身惡阻、酢心、胸中冷、腹痛不能飲食、輒吐青

黃汁方用

人參 干薑 半夏

凡三物、分等、治下、以地黃汁和丸如梧子、一服三丸、日三。

(今案、極要方云、各八分、稍加至十丸。產經云、人參丸神良。)

○治任婦養胎方 第五

僧深方云、養胎易生、丹參膏方

丹參 四兩 人參 二分（二方二兩） 當歸 四分 芎藭 二兩

蜀椒 二兩 白朮 二兩 猪膏 一斤

凡六物、切、以真苦酒漬之、夏天二三日、於微火上煎、當着底絞之、手不得離、三上三下、藥成、絞去滓、以溫酒服如棗核、日三。稍增、可加。

若有傷、動見血、服如雞子黃者、晝夜六七服之、神良。

任身七月便可服、至坐卧忽生不覺。又治生後余腹痛也。

（今檢、產經云、丹參一斤、當歸四兩、芎藭八兩、白朮四兩、蜀椒四兩、脂肪四斤、云云。）

○治任婦胎墮血不止方 第九

僧深方云、生姜、切、五升、以水八升、煮。取三升、分三服。

○治任婦墮胎腹痛方 第十

僧深方云、治墮身、血不盡去、留苦煩滿方

香豉一升半

以水三升、煮三沸、滴取汁、內成末鹿角一方寸匕、服、須臾血下煩止。

（今檢、千金方云、麻角二兩。）

○治任婦頓僕舉重去血方 第十四

僧深方云、治任身由於頓僕及舉重去血方

搗黃連、下篩、以酒服方寸匕、日三、乃止。

又云（第二）

取生青竹、薄刮取上青皮、以好酒一升和、三合許、一服。

○治任婦心痛方 第十八

僧深方云、吳茱萸五合、以酒煮三沸。分三服。

○治任婦腰痛方 第二十一

僧深方云、治任身腰痛方

熬鹽令熱、布裏與熨之。

○治任婦瘡方 第三十

僧深方云、

竹葉 一升（細切） 恆山 一兩（細切）

水一斗半、煮竹葉、取七升半、內恆山漬一宿、明旦煮。取二升半、再服。先發一時一服、發一服盡。去竹葉、內恆山。

■卷二十三

○治產難方 第九

僧深方云、取猪肪煎、吞如鷄子者（黃臑）一枚、即生、不生、復吞之。

又方（第二）

蒲黃大如棗、以井華水服之。良驗。

又方（第三）、取竈中黃土末、以三指撮酒服、立生。土着兒頭、出良。

（今按、博濟安衆方、加竈突墨。）

又方（第四）、滑石末三指撮酒服。

○治逆產方 第十

僧深方云、熬葵子令黃、三指撮、酒服之。

○治子死腹中方 第十三

僧深方云、取牛膝根兩株、拍破、以沸湯潑之飲汁、兒。（立出）

又方（第二）

以酒服蒲黃二寸匕。

又方（第三）

好書墨三寸、末、一頓飲之、即下。

○治胞衣不出方 第十四

僧深方云、

水銀服如小豆二枚。

又方（第二）

取夫單衣若巾、覆井、立出。

○治產後運悶方 第二十

僧深方、治產後心悶腹痛方

生地黃汁一升、酒三合和、溫服。

（今案、博濟安衆方、無酒。）

○治產後腹痛方 第二十二

僧深方、治產後余寒冷、腹中絞痛並上下方

吳茱萸 干薑 當歸 夕藥 獨活 甘草（各一兩）

凡六物、水八升、煮。取三升、分三服。

○治產後中風口噤方 第二十七

僧深方、治產後中風口噤方

獨活 八兩 葛根 六兩 甘草 二兩 生薑 六兩

四物、水七升、煮。取三升、分四服。

（今案、博濟安衆方、獨活二兩、葛根一兩、甘草一兩、生薑二兩。右、以水二升、煎。取八合、分五六服。）

○治產後無乳汁方 第三十六

僧深方、治乳不下方

取生栝樓根、燒作炭、治下篩、食已、服方寸匕、日四五服。

又方（第二）

治下栝萸、干者為散、勿燒。亦方寸匕、井華水服之。

■卷二十四

○治無子法 第一

僧深方、慶雲散、治大（丈）夫陽氣不足、不能施化、施化無所成方

天門冬 九兩（去心） 菟絲子 一升 桑上寄生 四兩 紫石英

二兩 覆盆子 一升 五味子 一升 天雄 一兩（炮） 石斛

三兩 朮 三兩（熬、令反色。素不耐冷者、去寄生、加細辛四兩。）

凡九物、治、令下篩、以酒服方寸匕、先食、日三。陽氣少而無子

者、去石斛、加檳榔十五枚。

承澤丸、治婦人下焦三十六疾、不孕育及絕產方（第二）

梅核 一升 辛夷 一升 藁本 一兩 澤蘭 十五合 搜疏 一

兩 葛上亭長 七枚

凡六物、治、下篩、和以蜜丸如蠅豆、先食、服二丸、日三。不知、稍增。

■卷二十五

○小兒去鵝口方 第十一

爽師方云、小兒鵝口方、

桑白汁和胡粉、塗之。

○小兒變蒸（法）第十四

葛氏方、又方說、服紫丸、當須完出、若不出、出不完、為病未盡、

當更服之。有熱服紫丸、無熱但有寒者、勤服乳頭單當歸散・黃耆散。

變蒸服藥後微熱者、亦可與除熱黃芩湯方。（出僧深方。）（第三）

黃芩湯、少小輩變蒸時服藥、下後有朝夕熱吐利、除熱方

黃芩 一兩 甘草 六銖 人參 一兩 干地黄 六銖 甘草 半

兩（炙） 大棗 （五枚 去核）

凡六物、切之、以水三升、煮。取一升、絞去滓。二百日兒服半合、三百日兒服一合、日再、熱差、止。變蒸、兒有微熱可服。（出張仲。）

○治小兒解顱方 第二十

僧深方云、取豬牙車骨髓、塗囟上、日一。十日止。良。

○治小兒頭瘡方 第二十六

僧深方云、燒竹葉、和雞子白、傅之、不過三、愈。

○治小兒口噤方 第五十

僧深方、取雀矢白、丸如麻子、服之、即愈。

○治小兒脫肛方 第八十四

僧深方、取蒲黃（二兩）、以豬膏和、傅之。不過三、愈。

○治小兒瘡病方 第九十五

集驗方、

桃葉二七枚、案心上、艾灸葉上十四壯。

〔Ⅱ卷十四 治諸瘡方 第十三 集驗方、又方（第三）Ⅱ僧深方同〕

○治小兒大便血方 第一百十一

僧深方、茅根二把、以水四升、煮。取二升、服之。

○治小兒淋病方 第一百十三

僧深方云、車前子、滑石分等、治篩、麥粥清和、服半錢匕。

○治小兒身體腫方 第一百二十七

僧深方云、少小手足身體腫方

取咸菹汁溫漬之。汁味盡。易。

○治小兒咳嗽方 第一百五十二

僧深方云、款冬花丸治小兒咳嗽方、

款冬花 六分 紫菀 六分 桂心 二分 伏龍肝 二分

右四物、下篩、蜜和如棗核、着乳頭、日三夜二。

（今案、以大棗丸治之尤驗、其方在大人方中。）

■卷二十六

○美色方 第二

僧深方、治面令白方

白瓜子 五兩（二方五分） 楊白皮 三兩（二方三分） 桃花

四兩（二方四分）

右三物、下篩、服方寸匕、食已、日三。欲白、加瓜子。欲赤、加桃花。服藥十日、面白。五十日、手足舉體、鮮潔也。

■卷二十九

○治食噎不下方 第二十七

僧深方、治食噎不下方

傍人可緩解衣帶、勿令噎者知、卽下。

又方（第二）

水一杯、以刀橫書水已、復縱盡、飲卽下。

救急單驗方

取鷄尾若雉尾、深內喉中卽（僧深方有摘字）通。

○治食鬱穴漏肺中毒方 第三十七

僧深方、治鬱穴漏肺中毒方

蓮根搗、以水和、絞汁服之。

○治食蟹中毒方 第三十九

僧深方、治食蟹毒方

煮蘆蓬茸、飲汁之。

○治食諸魚骨哽方 第四十

僧深方、治骨哽方

水一杯、以筆臨水上書作通達字、飲之、便下。（或本作盡不著水）書羹亦好。

又方（第二）、葵薤羹飲之、卽隨羹出、有驗。

○治食諸哽方 第四十一

僧深方、治食諸穴骨哽方

燒鷹糞、下篩、服方寸匕。

○治誤吞針生鐵物方 第四十六

僧深方、治誤飲釘箭鐵物方（今案、本草云、鐵毒用茲石解）

治炭末、飲之、卽與針俱出。

注

- (1) 医学館の翻刻の景印本は各種リプリントがある。
半井家本の景印本は、オリエント出版から刊行された。『国宝 半井家本医心方』全六巻、一九九一年
- (2) 馬繼興「『医心方』中的古医文献初探」『撰進一千年記念 医心方』医心方一千年記念会、一九八六年
- (3) 本によって『梅略方』すなわち隋・文梅『梅師方』を挙げるものがある。
- (4) 眼科関連引書『眼論』等があり、インドの医書を翻訳したといわれる唐・謝道人『天竺經・眼論』との関連については、今後精査する。
- (5) 条数を数えるときの規準は、研究者によって異なるが、本稿では「僧深方」「又云」「又方」とするものを直接引用、他本を典拠とする処方の中や最後に割注などの形で言及するものを間接引用として数えた。「又云」というのは、唐代の注釈で、長い原文を分割した後、続きを表示するときの文言である。その点については、八重津洋平「『故唐律疏議』」(滋賀秀三編『中国法制史 基本資料の研究』東京大学出版会、一九九三年、一八三頁) 参照。
- (6) 『日本国見在書目録』が一卷少なく著録する理由は不明。
- (7) 『千金方』は『千金要方』とも『備急千金要方』とも称されるが、ここでは『千金方』を用いる。
- (8) 孫思邈『千金方』卷七 風毒脚氣方 論風毒脚氣第一
論曰、考諸經方往往有脚弱之論、而古人少有此疾。自永嘉南度、衣纓士人、多有遺者。嶺表江東、有支法存仰道人等、並留

意經方、偏善斯術。晉朝仕望、多獲全濟、莫不由此二公。
又宋齊間有釋門深師、師道人、述法存等、諸家旧方爲三十卷。其脚弱一方、近百余首。

魏周之代、蓋無此病。然此病発初得先脚起。因即脛腫。時人號爲脚氣。深師云、脚弱者、即其義也。深師述支法存。所用永平山敷・施連・范祖耀・黃素等、諸脚弱方、凡八十餘條、皆是精要、

然學者尋覽、頗覺繁重、正是方集耳、卒欲救急、莫測指南、今取其所 經用灼然有效者、以備倉卒、餘者不復具述。

なお、巷間『太平御覽』七二四所引『千金方序』という史料が用いられることがあるが、内容は右の卷二十二の節録であり、今本『千金方序』に明文はない。

- (9) 『外臺祕要方』卷三七 乳石陰陽體性並草藥觸動形候等論並法一十七首(據宋版本)

『延年秘録』：舊論曰、神農・桐君(Ⅱ)『桐君藥錄』『隋書』經籍志に「桐君藥錄三卷」、「日本國見在書目」に「桐君藥錄二卷」あり、深達藥性、所以相反畏惡、備於本草。但深師祖學道洪、道洪所傳、何所依據云。

- (10) 注8参照

(11) 沙門有支法存者、本自胡人、生長廣州、妙善醫術、遂成巨富。有八尺翕登、光彩耀目、作百種形象。又有沈香八尺板床、居常香馥。太原王琰(一作談)爲廣州刺史、大兒邵之、屢求二物、法存不與、王因狀法存豪縱、乃殺而藉沒家財焉。法存死後、形見於府內、輒打閣下鼓、似若稱冤、如此經日、王尋得病、恆見法存守之、少時遂亡。

邵之比至揚都、亦喪。

太原王琰は志怪小説『冥祥記』（四七九～五〇一の間に成立か）の撰者とする時代が合わない。

(12) 『隋書』卷三四 経籍志三

醫方

醫方論七卷

梁有：支法存申蘇方五卷亡。

(13) 大正五二 No. 二一〇七 四四一頁

(14) 大正五十 No. 二一〇六一 『宋高僧傳』卷第二十 唐江州廬山五老

峰法藏傳 八四〇頁

釋法藏、俗姓周氏、南康人也。…而於醫方明得其工巧。同支法

存之妙用焉。

…寶曆中（八二四～八二六）示滅、年八十二。

(15) 書目の『延年秘録』に関する記事は以下の通り。

『旧唐書』経籍志、医術

延年秘録 十二卷

『新唐書』芸文志

延年秘録 十二卷

『日本国見在書目録』医方家

延年秘録方 四

また『医心方』卷五「治目不明方第十三」には『大唐延年方』を引くが、同書と見られる。唐代の養生書で、『千金方』には見えず『千金翼方』は引用するので、この二書の間に成立したと考えられる。その点については、「王焘医学術思想研究」（『王焘医

学全書』中華中医薬出版社、二〇〇六年）一〇七一頁参照。

(16) 『隋書』卷三四 経籍志三

(17) 大正五五 八〇頁

(18) 平川彰『律蔵の研究』春秋社、一九六〇年によると四大広律の訳出年代は以下の通り。

『十誦律』 後秦・弗若多羅共鳩摩羅什訳 説一切有部 四〇

四〇九+a（鳩摩羅什の死後、卑摩羅叉が補訂）

『四分律』 姚秦・仏陀耶舎・竺仏念等訳 法蔵部 四一〇～

四二二

『摩訶僧祇律』 東晋・仏陀跋陀等共法顯訳 大衆部 四一六

～四一八

『五分律』 劉宋・仏陀什共竺道生等訳 化地部 四二二～四

二三

(19) 『魏書』卷九十一 李脩傳

李脩、字思祖、本陽平館陶人。父亮、少學醫術、未能精究。世

祖時、奔劉義隆於彭城、

又就沙門僧坦研習衆方、略盡其術、針灸授藥、莫不有効。

『北史』卷九十 藝術傳下

李脩字思祖、本陽平館陶人也。父亮、少學醫術、未能精究。

太武時奔宋、又就沙門僧

坦、略盡其術。針灸授藥、罔不有効。

(20) 陳垣『史諱舉例』卷八、唐諱例

唐高祖 李氏 淵 淵改爲泉、或爲深。

(21) 『魏書』卷七下、高祖孝文帝宏紀、太和二十一年

十有二月己卯、蕭鸞將王曇紛等萬餘人寇南青州黃郭戍、戍主崔僧淵擊破之、悉虜其衆。

『北史』卷四十四 崔亮傳附叔祖道固傳

道固兄目連子僧祐・僧深。僧深坐兄僧祐與沙門法秀謀反〔校注〕。

〔校注〕魏書卷二四「深」作「淵」、北史避唐諱改。

(22) 大正五十 No. 二〇五九、三七五頁

(23) 大正五五 No. 二一四五、四一頁

至如彭城僧淵、誹謗涅槃、舌根銷爛。現表厥殃。大乘難誣、亦可驗也。

(24) 嚴世芸・李其忠主編『三国兩晋南北朝医学総集』人民衛生出版社、二〇〇九年五月。

本論文は平成二十〇二二年度独立法人日本学術振興会科学研究費（課題番号 20652004）による成果の一部である。骨子は、平成二十、二十一年度の日本宗教学会学術大会で発表した。